

翼PTA通信

第54号

発行
翼キャンパス
PTA

校長 南部次郎

新たな道へのスタート

PTA会長 平川宏美

ご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんは今日、それぞれの選択を胸に、翼キャンパスを巣立っていきます。さらに学びを深める人、社会に出て働く人、立場や環境は異なっても、ここから先は「自分で考え、自分で進む」時間が始まります。不安がまったくない人の方が少ないかもしれませんが。しかし、その不安は、皆さんが真剣に自分の人生と向き合っている証でもあります。

高校生活の中で、皆さんは多くの経験を重ねてきました。思い通りにいかない現実に向き合ったこと、人と比べて悩んだこと、努力が結果につながった喜びも、そうでなかった悔しさもあつたでしょう。そうした一つ一つが、これから先、進学先や職場、そして人生のさまざまな場面で、皆さんを支える「土台」になります。

これからは、正解がすぐに用意されている場面ばかりではありません。失敗することも、回り道に感じることもあるでしょう。けれど、遠回りに見える経験が、後になって自分を助けてくれることは少なくありません。どうか焦らず、自分なりのペースで歩いていってください。

皆さんは多くの大人に見守られ、応援されてきました。先生方、保護者、地域の方々など、直接言葉を交わす機会は少なくても、皆さんの成長を願ってきた人はたくさんいます。そのことを、困ったときや立ち止まりそうになったときに、思い出してもらえたらと思います。

保護者の皆さまにおかれましては、これまでお子さまを支え続けてこられた日々、心より敬意を表します。本日を迎えてこられたのは、ご家庭での見守りと励ましの積み重ねの結果でもあります。

卒業生の皆さん。皆さんのこれからの人生が、挑戦と学びに満ちたものであることを願っています。翼キャンパスで過ごした時間が、いつか振り返ったときの支えとなることを信じています。皆さんの未来に、心からのエールを送ります。

本日は、本当におめでとうございます。

卒業を迎えて

卒業式を迎えられた生徒の皆さん、おめでとうございます。そして保護者の皆さんに、心よりお祝い申し上げます。お子様のご卒業おめでとうございます。また、これまで本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、教職員を代表して厚く御礼申し上げます。

さて、生徒の皆さんは本校翼キャンパスで友人と共に過ごした高校生活の感想はどうだったでしょうか。この卒業式を迎えることができるということは、知識や技能だけでなく、たくさんの経験から大きく成長することができたからではないでしょうか。皆さんは様々な困難や課題に直面しながらも、仲間と励まし合い、学び合いながら日々努力を重ねてこられました。その歩みは、決して平坦なものではなかったことと思います。しかし、皆さんが自らの力で未来へ向かって一歩一歩進んできたことは、大きな誇りとなり、これからの将来へ向けた大きな力となります。

ここで、晴れの門出にあたり、三つのことを伝えます。

一つ目、「夢をもって実現に向けて努力する」。

夢は人生を前向きに生きるための原動力です。夢を持つことで、自分がどの方向に進むべきかが明確になり、目的意識を持って毎日を過ごすことができます。また、夢は困難や壁に直面したときの支えにもなります。目標があることで、諦めずに努力を続ける勇気や希望を持つことができるのです。

二つ目、「自分と仲間を大切にする」。

自分を大切にすることと仲間を大切にすることは、どちらも生きていく上で欠かせない大切な価値観です。自分を大切にすることで心に余裕が生まれ、その余裕が友達への優しさや思いやりにつながります。お互いを尊重し、支え合うことで、より良い人生を歩んでいけると思います。

三つ目、「感謝の気持ちを忘れない」。

感謝の気持ちは、人生を豊かにする大きな力です。どんな小さなことでも素直に「ありがとう」と思える心を持ち続けることで、周囲との関係がより良くなり、自分自身も幸せを感じることがができます。これからも感謝の気持ちを大切に、より充実した毎日を送ってください。

この三つのことを心に刻んで、翼キャンパスで学んだことを大切に、これからは自身の意思や判断で物事を主体的に学びながら、心身ともに豊かに過ごしてください。卒業式は高校生活との別れではありますが、新たな旅立ちでもあります。これから先、社会に出てさまざまな経験をしながら、これまで学んだことや培ってきた人とのつながりを大切に、自信をもって歩んでください。困難に直面したときは、ここで過ごした日々を思い出し、仲間や先生方、家族に支えられていたことを胸に、前を向いて進んでほしいと願っています。

保護者の皆様、これまで温かいご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。お子様の成長を支え、ともに歩んでくださったことが、今日の晴れの日を迎えることにつながりました。ありがとうございました。

最後に、卒業生の皆さん、校訓の「明るく、正しく、たくましく」のとおり、立派な社会人として活躍ください。皆さんの前途に、幸多からんことを心よりお祈り申し上げます。

三年間で培ったもの

三年二組 安藤凡乃加

私の三年間の高校生活は、不安から始まり、多くの経験を通して自分に自信を持つことが出来たかけがえのない時間でした。入学当初は新しい環境や人間関係に戸惑い、クラスになじめるのか、上手くやっていけるのかと不安な気持ちでいっぱいでした。周囲の目を気にしてしまい、自分から行動することや意見を言うことが苦手でした。実際に、人間関係のトラブルで悩むことも多くありました。

そんな私が大きく変わるきっかけになった出来事が学校行事でした。文化祭では、買い出しや飾り付け、クラス企画の発表など様々なことを積極的に行いました。クラスのために自分が出ることを考えて、友人と協力して精一杯頑張りました。結果として、クラス発表の部門で三位に入賞することができました。また、体育祭ではあまり人気の無い競技を引き受けました。不安や緊張もありましたが「誰かがやらなければいけない」という思いで臨みました。実際にやってみると、同級生や先生から応援の言葉をかけてもらったり、感謝の言葉をかけてもらったりと、自分の行動がクラスの役に立っていると感じるようになりました。自分で自信を持つことができるようになった大きな経験でした。

正直、自分の中に「もっと学校行事を盛り上げることができればよかった」という思いがあります。しかし、自ら行動することや意見を言うことが苦手だった私が、クラスのために行動できたことを思い返すと「自分にできることを考えて精一杯努力した」と胸を張って言うこともできます。この三年間どうしても上手いかなかったタイミングもありました。そんな時、私の支えになってくれた人が、小学生の頃からの友人です。高校に入り、新しく築いた関係が上手くいかない中で、その友人とは以前よりも深く関わるようになりました。身近にいた大切な存在に気づくことができた経験も、私が三年間の高校生活で得た大きな宝物です。

率直にこの三年間を振り返ると、楽しい思い出よりも上手いかなかった思い出の方が多くあげられると思います。時には、「誰からも評価されていない、誰からも気にかけてもらえない」と虚しさを感じたこともありましたが、しかし、上手くいかない状況の中で、逃げずに向き合い、自分なりに過ごしてきた時間には確かな意味があったと思います。また、上手くいかなかった経験が多かったからこそ、身近にいる大切な存在や、自分自身と向き合う時間を多くとることができました。誰かに合わせ過ぎず、自分がどうしたいのかを考えて行動するようになったことは、私の高校生活で一番大きな成長だったと思います。私の高校生活を支えてくれた様々な方への感謝を忘れずに、次の場所でも自分の歩幅で前に進んでいきたいと思っています。三年間ありがとうございました。



卒業生に贈る言葉

【みんな、洞窟を出ようぜ！】

三年一組担任 高丸満夫

昔の人は、言いました。「人は、自分の生まれ育った環境を、当たり前のことだと思ってしまう。洞窟の中で暮らしているようなものだ」と。「洞窟のイドラ」と、表現されます。日本でも、古くから「井の中の蛙」という言葉がありますね。

例えば、愛知県の学校で使う「放課」という言葉は、全国的には「休み時間」と言います。「業後」という言葉は、愛知県以外では「放課後」と言われています。一宮市の学校だけに通じる「おくうん（屋運？）」なんていう言葉もありますよね。

自分が生まれ育った環境では通じていた言葉や違和感のない行動が、広い世界に一步踏み出せば（つまり、洞窟の外に出てみれば）、全く違う反応をされるが多々あります。これからの人生、様々な「他者」と共存していかなければなりません。たとえば、他国に暮らす人々とは、コミュニケーションをとって共感するのが難しい、と知っている人も多いでしょう。

それは当たり前のこと。世界では、いろんな言葉が話され、いろんな文化が育まれています。そしてそれは、これまでの人類がそれぞれの場所で、長年の歴史を経て作り上げたもの。言葉も、文字も、生活スタイルも、違いがあつて当然です。しかし、そこには、優劣はなく、すべての文化に価値がある。時に、自分たちの文化を「いいもの」と思い込み、他の文化を「レベルの低いもの」と、さげすむ人もいますが、それでは、いつまでもお互いを理解し合えないし、平和な世の中は訪れません。

みんな、洞窟を出て、いろんな文化に接し、他者への理解を深めましょう。それが、世界を平和にする、第一歩です。



【過去を力に変えて】

三年二組担任 伊藤輝

ご卒業おめでとうございます。

皆さんの輝かしい青春の一部に少しでも携わることが出来たかと思うと、私自身とても嬉しく思います。私は三年生の担任として短い間ではありましたが、色々な皆さんを見てきました。毎日のたわいのない出来事に笑いあう姿、学校行事を頑張る姿、人間関係、進路に悩む姿…。いつからでしょうか。皆さんの姿は私の姿になり、皆さんの感情は私の感情になっていました。皆さんと共に笑い、努力し、悩んだ日々は私の宝物です。これは紛れもなく皆さんが私にくれた宝物です。

皆さんは翼キャンパスにおいて、先生方や友人から何かを学び、感じ、与えられ、そして「何かを人に与えることができる存在」になっていったと思います。社会という大きな枠組みの中で人は、常に誰かに何かを与え、そして誰かから何かを与えられながら生きています。その枠組みの中で生きていく準備が出来ているということは皆さんが誇りに思うべきことです。ぜひ、胸を張って卒業後の人生を歩んで行って欲しいと思います。

私の大切にして言葉として「温故知新」という四字熟語があります。「故きを温ねて新しきを知る」、一般的には「古い知識や経験を振り返ることで、新しい知識が生まれてくる」という意味で使われます。しかしこれは知識だけでなく、人生そのものにも当てはまると思います。皆さんがこの先の人生を歩んでいく上で、どうしようもなく辛い時や、逃げ出したくなるような時が必ずやってきます。そんな時、翼キャンパスでの楽しかった経験や、苦しかった経験、何気ないと思っていた日常が、いつの間にか皆さんの背中を押してくれる過去になっていることに気付くと思います。過去にすがって生きるのではなく、過去を「お守り」として持って、人生を歩んでいくこと。皆さんにはそんな過去との向き合い方ができる人になって欲しいです。私も「お守り」として皆さんとの過去を持って、人生を歩んでいきますね。皆さんの山あり谷ありの人生を、皆さんが翼キャンパスで培った力と経験で歩いていくことを願っています。



【未来をきりひらけ！】

三年三組担任 岩田崇志

ねえ きみ お母さんを知ってるかい
きみが生まれたとき 病んだとき
眠らずじっとそばにいて
心を痛めていたのがお母さんだ。

ねえ きみ お父さんを知ってるかい
夜中にどんなに遅く帰っても
きみの寝顔をそっとみて
黙って床についたのがお父さんだ

ねえ きみ 友達を知ってるかい
平気でいつも楽しそうだけど
誰もがひとつ以上悩みをかかえ
こらえながら頑張っているのが友達だ

ねえ きみ 自分を知ってるかい
たとえ勉強やスポーツが苦手でも
必ず二つ三つは自慢できるものがある
それに気づいていないのが自分なんだ

ねえ きみ 生きるって知ってるかい
きみの中にある その自慢できるものを
どれでもいいから輝かせてごらん
それがきみにとっての生きることなんだ

ねえ きみ 生命って知ってるかい
きみがもし死んだら 親も友達も泣く
かけがえのないものだから
生きられるだけ生きてこそ生命なんだ

ねえ きみ 未来って知ってるかい
どうなるかわからないこれからは
きみの知恵と力できりひらく
そのわくわくする冒険が未来なんだよ

(俳優の武田鉄也さんが演じる金八先生のモデルだった坂本光男さんの詩)

この詩は先生の好きな詩です。

この詩のように、君達には、自慢できる能力があると思います。その能力は、両親に与えてもらったものもあるし、今までの環境の中で身に付けてきたものもあると思います。

これからの人生、その能力をもっと高めていってください。また、新しい能力を身に付けてください。その力がこれからの未来をきりひらいていくと思います。

卒業おめでとうございます。

【『今、思うこと』】

四年一組担任 下條直樹

自分が生まれたのは戦後で、戦争から20年が経っていて、戦争は遠いものだった。ベトナム戦争などはあったようだが、自分たちには関係のないものかと思っていた。周りの大人たちは戦争を経験した人たちがいて二度と戦争はしたくないと言っていた。高校の朝礼で、校長先生が話す話は、戦争の話が多く、まだ、身近に戦争はあったのかもしれない。

最近、いろんなところから軍事衝突など戦争のニュースが流れてくる。地域的な紛争はいろいろなところで続いていたが、今はアメリカやロシアの大国が関わる戦争のニュースが流れる。その戦争では、多くの人たちが血を流しているが、死者何人、けが人何人で話が流れていくだけだ。そこには、自分と同じように日常を送っていた人たちが、突然、戦争に巻き込まれ、日常を失っている人がいる。

自分が大人になると、戦争を知る人たちは減り、戦争の話題も減ってきた。そして、日本で戦争が起こることは、歴史上の話で、未来にはあり得ないと思っている。自分は、意識的に、戦争を知る努力をしてきた。映画やテレビ番組の戦争を取り扱ったもの、戦績と言われる場所への旅行など、自分なりの戦争観で、戦争というものの認識をつくってきた。

広島・長崎の被爆者の方が語る悲惨な内容は、物語として聞いていた話が、現実として存在したという恐ろしさを感じた。沖縄で学生だった人が銃を持って戦った話は、被害者ではなく加害者になる恐ろしさを感じた。殺し合う先に希望があると思えない。戦争に大義はない。あるのは悲惨な現実だけである。

将来、日本で戦争があるのかなのか。まだ、ないように思っている。でも、戦争ができる準備を日本はどんどんしている。防衛費がどんどん増えているが、それに歯止めをかける話はほとんど出てこない。憲法で戦争できない国なのになぜなのか。

自分を守るときに、武器を持ち相手を威嚇しながら生きていく。相手が強い武器を持てば、自分はさらに強い武器を持つ。相手が殴ったら、殴り返す。殴り返された相手はさらに殴ってくる。どこで終わりがくるのか。殴られても殴らないことを宣言し、殴る相手に殴ることの愚かさを感じさせ気力をなくさせる。殴らないと宣言する仲間をふやし、殴るという手段をなくすようにする。愚かな人類には、その手段を見つけることは無理な話なのか。

我々は、叡智のある人間である。その叡智を使い、社会をどんどん進化させている。その叡智を生かし、戦争という悲劇をなくしたい。それが、できない人類に未来は残されているのだろうか。



【相談室から】

教育相談員 祖父江元宏

言葉の使い方次第で生活や人生が変わるかもしれません。言葉には特別な力が秘められていると言われます。マザーテレサの言葉に「思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから」があります。まずは毎日の生活の中で使う言葉を前向きにポジティブに心がけてみませんか。

それでもどんなに努力してがんばってもうまくいかないときもあります。どうしても悩みや不安から抜け出せないときは、自分だけで抱え込むのではなく、早めに先生や保護者、友人など誰か信頼できる人に相談することをお勧めします。話を聞いてもらうことで気持ち楽になったり、解決のヒントを得たりすることがあります。相談室を利用することも一つの選択肢です。困ったときには、気軽に来室してください。

保護者の皆様へ。本校の相談室は、お子様の相談はもちろん、お子様のことに関わる保護者の皆様の相談も承ります。何かありましたら気軽に来室してください。電話での相談も行っています。

相談室利用について

相談日 学業日(月、金曜日)
時間帯 九時～十五時(※金曜日は十四時迄)
方法 来室相談(電話相談も可)
場所 翼キャンパス本館玄関横

